

2:1 ですから、すべて他人をさばく人よ。あなたに弁解の余地はありません。あなたは、他人をさばくことによって、自分自身を罪に定めています。さばくあなたが、それと同じことを行なっているからです。

2:2 私たちは、そのようなことを行なっている人々に下る神のさばきが正しいことを知っています。

2:3 そのようなことをしている人々をさばきながら、自分で同じことをしている人よ。あなたは、自分は神のさばきを免れるのだとも思っているのですか。

2:4 それとも、神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と忍耐と寛容とを軽んじているのですか。

2:5 ところが、あなたは、かたくなさと悔い改めない心のゆえに、御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの現われる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。

2:6 神は、ひとりひとりに、その人の行ないに従って報いをお与えになります。

2:7 忍耐をもって善を行ない、栄光と誉れと不滅のものを求める者には、永遠のいのちを与え、

2:8 党派心を持ち、真理に従わないで不義に従う者には、怒りと憤りを下されるのです。

2:9 患難と苦悩とは、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、悪を行なうすべての者の上に下り、

2:10 栄光と誉れと平和は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、善を行なうすべての者の上にあります。

2:11 神にはえこひいきなどはないからです。

前節ではパウロは、神を神としてあがめない者の罪について語っています。神をあがめない者は、結局自分自身の欲望によって生きるので、罪に陥ってしまうということです。そこには自己中心という問題が根深く横たわっています。

そこで次は「他人をさばく人」の自己中心について、パウロは問題にしています。他人をさばく人は自己中心です。また自分が見えていない人です。すなわち、自分は正しい思い込んでいるので、他の人をさばくのです。

しかし、実は自分自身が罪を犯しているのです。自分で自分をさばいているのと同じなのです。どんなに他人をさばいて、自分は正義感がある者であろうとしても、神の前には罪人である以上、さばかない人よりもっと悪いことになってしまいます。

私たちも、神様に従っていないとしたら、無意識でも意識的にでも、神様に逆らっているのですから罪を犯していることになります。他人をさばくことはやめましょう。私たちはもう十字架で罪が赦されているのですから、そのことの感謝によってまた新しく生まれたその価値観によって歩みましょう。その感謝と価値観は聖霊様によって与えられます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

